

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	利用者が健康を維持できるよう支援を行っている
タイトル①	ミールラウンドによる嚥下や食事形態についての助言を日々の支援に活かしている	
内容①	障害や高齢化等、利用者の状況に応じてキザミ食、トロミ食等の食形態が提供されている。歯科嘱託医による定期的な口腔状態のチェックに加え、今年度から新たに月に1回の頻度で専門の訪問歯科医によるミールラウンドが行われている。咀嚼・嚥下状態の観察を行った上で食事摂取の方法や形態についての助言を受けており、ケース記録には改良を加えた食事形態と共に利用者の食事状況が詳細に記載されている。栄養士とも情報共有しながら日々の支援を行うとともに、サービス提供記録を通して家族にも経過が報告されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	現場での職員育成を重視し「7分間勉強会」を行う等、支援スキル向上に取り組んでいる	
内容②	職員の育成にあたっては「育成ノート」を活用しており、面談の際の導入内容や面接終了時の締めの言葉等を管理職間で共有して職員が話しやすい環境をつくるとともに、個々の職員の得意、不得意を明確にしたうえで、相互評価のフィードバック内容を確認している。また現場での職員育成を重視し、非常勤職員も含めた職員の支援スキル向上に向けた「7分間勉強会」を実施している。勉強会では「発作と嚥下について」等、普段職員が悩んでいることをテーマに管理職がポイントを絞り、見てわかる実演をした上で対応の共有を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-2	利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している
タイトル③	「求めと必要と合意」に基づき、ポジティブで効果的な個別支援計画を作成している	
内容③	事業所は、「求めと必要と合意」に基づき、利用者の要望や夢に沿ったポジティブで効果的な個別支援計画を作成するために、「生活」「作業」2種類の独自のアセスメントシートに情報をまとめている。そして、アセスメント項目毎の本人・家族の要望踏まえて必要な支援を検討し、等身大の本人像に近づけるよう定期的に更新して本人への理解を深めている。そのうえで、本人の意向・要望を実現させることが職員の使命との認識の共有を図りながら、優先度の高い目標に沿って具体的な支援を行い、利用者が望む本人らしい生活が送れるようサポートしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	フロア別支援体制から全体支援体制としたことで職員間の情報共有が進み、風通しの良い組織づくりとチームワークの向上につなげている
	内容	今年度、人事異動により職員構造が変わったことから支援体制の見直しを図っており、フロア別の支援体制から全体支援に切り替え、フロアを超えて職員一体となり利用者支援を行っている。全体支援に向け、個々の職員の日々の業務内容、及び裁量と責任を明確化して業務量の調整を行うとともに、日々の合同打ち合わせを開始し互いのフロアの情報共有化を図り、さらに各フロアでは書式やホワイトボードを活用し、仕事の見える化を図っている。結果として組織としての風通しの良さやチームワークの向上に繋がると同時に、作業レパトリーが増加している。
2	タイトル	主体性の尊重を大切にしている事業所では、活動を通して利用者の自己決定や意思決定を支援する場が複数用意されている
	内容	利用者の夢や希望の実現に向け、主体性を重視した支援を行うことを基本的な方針としており、利用者の自己選択や意思決定を支援する様々な場が用意されている。本人の希望を取り入れた作業種の選択、クラブ活動、日々の係活動に加え、選挙で選ばれた役員を中心にした自治会活動では定期的にタウンミーティングを行っている。また、利用者代表者会議を通して事業所運営についての意見を発言する機会を設けており、利用者が自分達の環境をより良いものにしていく姿勢が定着しつつある。
3	タイトル	個別支援計画を全職員で共有し、フロアを超えた作業種の選択により、利用者のエンパワメントにつながっている
	内容	フロア別から全体支援体制に切り替えたことで、全職員が全利用者を理解して支援することが求められるようになり、日々の合同打合せに加え、個々の個別支援計画の内容を全職員で共有することに取り組んでいる。具体的には計画策定の時期を見直すとともに、フロア別から全職員での策定体制とした。また、全利用者の目標・具体的な支援は一覧表にして職員全員が所持し、いつでも確認できる環境を整え、フロアを超えて利用者の特性や目標に応じた作業種の選択を可能としたことで、工賃が向上した利用者もいるなど、エンパワメントにつながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	自主生産品のかりんとう饅頭において今後、利用者が携わる作業工程や活躍の場が増えることに期待したい
	内容	工賃の大きなウエイトを占める公園清掃委託事業や複数の受注作業に加え、自主生産品としてかりんとう饅頭の加工・販売を行っている。区役所の販売会や地域のイベント等を利用して常時の製造・販売体制を整えており、今年度は長期保存できるタイプの製品化も実現している。現状、イベントでの販売や製品を入れるための袋作りに利用者が携わっており、今後は製造工程にも参加できるよう準備を進めていたが、コロナ禍の影響によるイベントの縮小や中止のため計画が中断しており、次年度以降の活動が期待される。
2	タイトル	利用者へのグレーゾーンの対応について職員間の共通認識をさらに深め、具体的な支援にいかしていくことが望まれる
	内容	事業所では、職員の思いを大切にしたいうえで皆で考え、より良い支援につながるようにすることを目的に、「倫理要綱」「虐待防止」「利用者支援全般」等についての職員振り返りチェックシートを行っている。実施後は虐待防止委員会がその結果を分析して、支援の傾向や特に認識を改める必要がある内容について学ぶ機会を設けている。今年度は、インシデントから全職員参加で手法を使い「望ましい支援」「望ましくない支援」等をまとめているが、グレーゾーンの対応については職員間の共通認識をさらに深め、具体的な支援にいかしていくことが望まれる。
3	タイトル	将来の多機能型事業所への変換に向け、課題を明確にした上で、具体的な工程表等を策定することが求められる
	内容	区内では就労継続支援B型への新卒者のニーズが低く、昨年度の事業所の利用率は82.7%であり、今年度も利用者定員を満たしていない状況となっている。また今年度から、区の補助金削減が始まるなど経営の安定化が課題であり、現在事業所では、4年後を見据えて生活介護事業を併設した多機能型事業所への変換を検討している。生活介護事業を行う上で送迎サービスは欠かせないが、建物の関係上、都や区との調整が必要となる等、各種の課題もあり、課題を明確にした上で、多機能化に向けた具体的な工程表等を策定することが求められる。